

令和5年度
学習のねらいと進め方
各教科のシラバス
《第3学年》



大阪府立咲くやこの花中学校

教科	国語	学年	3	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。受け身ではなく積極的に参加しましょう。 ・様々な文章にふれ、「読む能力」を向上させるとともに、意思を明確に伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けていきましょう。 ・課題は最後まであきらめずに丁寧に取り組み、期日に遅れないように提出しましょう。家庭学習においては、課題以外の予習・復習も自主的に行うようにしましょう。

2 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	ノート ワークシート 定期考査 小テスト	ノート ワークシート 定期考査 小テスト	ノート ワークシート

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	数学	学年	3	週当たり時間数	5
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、少し届かないくらいの目標を立て、挑戦する姿勢で取り組みましょう。 ・自分の意見を発表し、相手の意見を聴いて、多面的に考えましょう。 ・授業中は大いに間違えて構いません。その後、しっかり復習して、次は間違えないようにしましょう。 ・問題集は、その日に学習した内容のページを、その日のうちに取り組みましょう。

2 学習の到達目標

<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>
--

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト	提出ノート 提出課題

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	社会	学年	3	週当たり時間数	3
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

公民という言葉为国語辞典で調べると、「公務に参加する権利・義務を持つ者」とあります。簡単に言えば、「社会の中で生活していくすべての人々」のことになり、中学生も当然その一人に入ります。よって、公民の授業では、みなさんがこれから生きて行く上で必要な様々なことを学習していきます。現在の世の中は、人権・環境・政治・国際化などの課題や問題が多々あります。それに対応できる教養・知識を身につけ、正しい価値判断ができるための基礎をしっかりと主体的に学習しましょう。ぜひ、普段から新聞やニュースなどを見るように心がけてください。また、1年間かけて探究活動として「卒業レポート」に取り組みます。「持続可能な社会」をめざすための現代社会の課題を1人1人が考え、テーマを設定しましょう。みなさんの発表を楽しみにしています。1年間、一緒に頑張りましょう。

- ・1学期の前半（6月ごろまで）は歴史的分野の学習を行います。
- ・授業では、課題に対して、諸資料をもとに自ら考えたり、調べたりしたうえで、周りの人と協同で考える活動を行います。
- ・テーマを設定し、調べたり意見を発表したりする活動も行います。
- ・授業中のノートは板書を写すだけではなく、自分の意見をメモや他者の意見のメモを取り、自身の思考の変化を記録しておきましょう。
- ・中高合同授業ではテーマを設定しディベートを行い、根拠にもとづいて論理的に考える力を養います。
- ・中学校3年間の総復習として、総まとめ問題集に取り組みます。総まとめ問題集は定期的に提出してもらいます。
- ・探究活動として「卒業レポート」に取り組みます。「課題設定」「調査・分析」「まとめ」「発表」の手順で持続可能な社会とは何かを考え、SDGsについても考察します。

2 学習の到達目標

【歴史的分野】

- (1) 我が国歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

【公民的分野】

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することをめざす。

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動の関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民民主

権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	我が国の国土を歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	定期考査 ノート 卒業レポート	定期考査 ノート 卒業レポート	ノート 観察 卒業レポート

* 通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	理科	学年	3	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

予習よりも復習を中心に学習してください。その日に習ったことはその日のうちにしっかりと整理しておくことが大切です。また、問題集を解くことによって、自分の理解度を確認することができます。問題集を解いて、できなかつたところをノートや教科書を見直して確認してください。せっかく問題を解いてもやりっ放しでは、効果は半減します。また、普段から自然科学に興味を持って生活するように心がけましょう。

2 学習の到達目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然の事物・現象の中から問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的な探究をしている。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評 価 方 法	授業における観察 レポートの作成 ペーパーテストの結果	授業における観察 レポートの作成・発表 ペーパーテストの結果	授業における観察 ノート等への記述 課題の提出状況と内容

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	英語	学年	3	週当たり時間数	4
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語の授業では間違いを恐れずにどんどん発言してみてください。間違いから気づきが生まれ、学びにつながります。ペア学習やグループ学習では、友達と協力してお互いの力が伸ばせるよう積極的に活動しましょう。また、家庭学習では復習に力をいれましょう。特に、音読を大切にしてください。声に出して読むことで、スピーキング力につながります。教科書のQRコードも利用して、正しい音声をインプットすると発音力も向上します。

2 学習の到達目標

領域	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題を含む様々な話題について、自然な速度のまとまった英語を聞いて、必要な情報、要点、話の概要を理解することができる。 教師が授業中に使う英語を全て理解することができる。 はっきりとポーズを入れながら話してもらえれば、ALTが自然な速度で話す英語の要点や概要が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な話題を含む様々なテーマのまとまった文章を最後まで読んで、未知語や細部にとられることなく、その概要や要点を理解することができる。 様々な形式の文章（案内、パンフレット、物語、記事、説明文）の概要や要点を理解できる。 登場人物の感情を理解したり、自分の意見や考えを持ったりできるような読み方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のあること、日常的なことについて即興で事実や自分の気持ちを伝えたり、相手からの質問に答えたりして会話を継続、発展させられる。 社会的な話題について、その内容に関する感想やその理由について4往復程度で伝え合える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のあることや日常のことについて自分の考えを、簡単な語句、文を用い、接続詞も使いながら、まとまりのある内容で話すことができる。 社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや感じたことについて理由をつけて4文程度で話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のあることや日常のことについて、文の前後関係を意識しながら正確でまとまりのある文章を書くことができる。 社会的なことについて、読んだり聞いたりしたことに対する自分の意見や考え、感想を、理由などを含めたまとまりのある文章で、即興で書くことができる。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際の実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考え方などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	外国の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	定期テスト（リスニング） 定期テスト（リーディング） パフォーマンステスト スピーキングテスト 定期テスト（ライティング）	定期テスト（リスニング） 定期テスト（リーディング） パフォーマンステスト スピーキングテスト 定期テスト（ライティング）	定期テスト（リスニング） 定期テスト（リーディング） パフォーマンステスト スピーキングテスト 定期テスト（ライティング）

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	音楽	学年	3	週当たり時間数	1
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・「歌う」「楽器を演奏する」「音楽を聴く」ことを年間通して学習します。音楽の学習は、クラスメイトとともに実際にやってみて、試してみても価値あるものとなり、そうして感性が豊かになります。協力して作り上げることが大切です。 ・学習の到達度は、授業内での実技テストや筆記テスト、配付するワークシートの取り組み内容で評価します。

2 学習の到達目標

<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
--

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
評価基準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評価方法	実技テスト 観察 ワークシート	実技テスト 観察	観察 ワークシート

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	美術	学年	3	週当たり時間数	1
----	----	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術を通して「表現する楽しさ」「分かちあう喜び」「豊かな心で感じ合うこと」を体験して欲しいと思います。

気持ちを込めて作ること、自分が表現したいことを掘り下げること、感じたことや考えたことを伝え合うことを大切に、取り組みましょう。

作品だけでなく、アイデア用紙、鑑賞レポートなども、評価の対象になります。

2 学習の到達目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や考え方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	ワークシート 作品	ワークシート 作品・ 鑑賞	振り返りシート 鑑賞

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	保健体育	学年	3	週当たり時間数	3
----	------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業の進め方	
● 体育	・1年間を通し「ランニング、トレーニング(3種目)」を継続して行い、基礎体力の向上をはかる。 ・单元ごとの「ねらい」に応じて、学習目標・計画をたて、練習する。 ・ゲームなどを行い、記録をとりながら、練習の成果をためす。
● 保健	・教科書「新中学保健体育」を中心に、「新中学保健体育ノート」を使用し授業を進める。
ノートの取り方	
●	单元ごとに提示される「学習カード」を使用し、要点の整理や確認をする。
●	「保健体育ノート」を使用し、要点の整理や確認をする。
家庭学習(予習・復習)のしかた	
予習	授業中に次回の予告をするので、体育は「中学体育実技」、保健は「新中学保健体育」の該当ページを読んでおく。
復習	● 体育 ・「中学体育実技」を使い要点を整理し確認する。 ・掲示された「学習カード」の内容を「中学体育実技」を使い確認する。 ● 保健 ・「新中学保健体育ノート」のまとめの問題をする。

2 学習の到達目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・選択領の運動の特性に応じた、基本的な技能を身につけている。 ・健康や安全について、基本的な知識を理解し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動を豊かに実践するための課題を発見し、解決に向けて考え、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・健康や安全について、課題解決をめざし、科学的に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関心を持ち、楽しさや喜びを経験できるよう、進んで取り組もうとしている。 ・健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。
評価基準	到達度 80%以上 … A (十分満足できる) 到達度 50～79% … B (おおむね満足できる) 到達度 0～49% … C (努力を要する)		
評価方法	授業における観察 実技テスト(発展) 定期テスト ワークシートノート	授業における観察 実技テスト(発展) 定期テスト ワークシートノート	授業における観察 授業の出席状況 ノート、ワークシート

*通知票には各観点の到達度 (A,B,C) に加え、各観点の到達度の平均値 (0～100) も示します。

教科	技術家庭（技術）	学年	3	週当たり時間数	2
----	----------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

よりよい生活を送るために、生活に必要な基礎的な知識や技術を理解し、実際の生活の中でいろいろな問題を解決する方法を学習します。
 実践的・体験的な活動として実習をおこないますので、注意事項をよく聞いて、安全第一を心がけて作業をしましょう。

2 学習の到達目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 成績評価の方法

それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に着け、技術と生活や社会、環境とのかかわりについて理解している。	生活や社会のなかから技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・提出物 ・作品・技能 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート ・提出物 ・作品・技能 ・定期考査 ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・作品 ・振り返り・自己評価

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。

教科	技術家庭（家庭）	学年	3	週当たり時間数	2
----	----------	----	---	---------	---

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭分野の学習は、これからの生活を展望し、課題をもって主体的によりよい生活を工夫できる力を身につけるうえで大切な学習です。特に中学生の時期は、人々に支えられて生活していることに気づくこと、そして自分も生活を支える一員としての自覚を持ち、生活をよりよくしようとする創意工夫をしていきましょう。

また、班学習などを通じて、ひとりひとりが自己の責任を果たすことの大切さや相互に協力しながら学ぶことも大切なことです。学習したことを生活に活かせるよう、しっかり勉強しましょう。

2 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関りを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 成績評価の方法 それぞれの観点ごとの到達度を A,B,C で示します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活や環境などについて理解しているとともに、それらにかかる技能を身につけている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現数などして課題を解決する力を身につけている。	家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決を主体的に取り組み、振り返って改善し、生活を工夫・想像することを実践しようとしている。
評 価 基 準	到達度 80%以上 … A（十分満足できる） 到達度 50～79% … B（おおむね満足できる） 到達度 0～49% … C（努力を要する）		
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況と内容 ・プリント等への記述 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中や課題への取り組み方の観察 ・ワークシート

*通知票には各観点の到達度（A,B,C）に加え、各観点の到達度の平均値（0～100）も示します。